

NICARAGUA

Finca Buenos Aires



General Information

農園名	: Finca Buenos Aires	生産処理	: Natural
オーナー	: Valladarez family (Cafetalera Buenos Aires)	農園面積	: 64 ha
会社名	: Inversiones Valladarez Acevedo S.A (INVASA)	栽培面積	: 25 ha
位置	: Dipilto, Nueva Segovia	収穫期労働者	: 1,000名 (10農園合計)
標高	: 1,200 – 1,550 M	Shade tree	: Guava, Bucaro, Musaccas, Avocado, Jocotes
品種	: Maracaturra		

< History >

Buenos Aires農園は、Nicaragua北部、Honduras国境に接するNueva Segovia県、Ocotal地区に位置します。Valladarez Familyは、元々Hondurasに住んでいましたが、1960年頃に内戦がひどくなり、このエリアに移り住んできました。Dipiltoの中心は土地が高かったため、まだ少ししかコーヒーが植えられていなかった、現在のBuenos Airesの土地を買うことにしました。その後、近くの土地を買い足しながら、10農園を所有する生産者へと成長しましたが、彼らの始まりの場所でもある本農園を現在もとても大切にしています。

現在は4代目に当たるLuis Emilio氏、Olman氏の兄弟で農園を管理していますが、彼らのお父さんのLuis Emilio氏も85歳を超えた今日も、ほぼ毎日農園やDry Millを訪れ、息子たちへ自らのコーヒーに対する情熱を伝え続けています。

2012年にはさび病のまん延、2020年後半には巨大なハリケーン“IOTA”、“ETA”の2つによって中米の多くのコーヒー農園が被害を被り、今まで数々の困難がありました。ハリケーンでは農園内の一部に土砂崩れがあったものの幸い大きな被害を受けずに済みましたが、気候変動、災害のリスクは年々大きくなっています。さび病をきっかけにさらなる農園管理の徹底を見直すきっかけとなり、常に彼らは継続して買付けてくれるお客様のために努力を惜まず、様々な変化に対応し、毎年安定した品質のコーヒー生産に取り組んでいます。

2012年頃より生産処理実験を開始し、様々なデータを蓄積してきました。現在では、生産処理中の6項目の数値のデータ指標が完成し、お客様の要望に合わせたフレーバープロファイルが生産処理によって作成可能となりました。Cafetalera Buenos Airesではこの生産処理方法及びデータ指標を駆使し、2023年、2024年の2年連続でCOE1位を受賞(Monte Livano Los Alpes農園)、2026年にはNatural&Honey部門で再度1位を受賞しました。



NICARAGUA

Finca Buenos Aires



<Processing / Natural>

①チェリーの収穫では、ニカラグア国内（主にJinotega）からPickerを集め、ハンドピッキングにて行われます。

⇒コロナ前までは完全完熟チェリーのみを摘み取るようPickerへ指導していますが、近年米国への移民が多く人口減少に直面しており、Pickerを集めること、ましてや経験のある熟年Pickerを集めることはとても難しい状況となりました。現在では、収穫の後半にはグリーンチェリーの状態でもピッキングしてきてもらい、収穫後のチェリー選別やサイフオンの精度を上げ、チェリーの質ごとに選別を行っています。通常のNicaraguaのピッカーの平均賃金より高い賃金を支払うこと、就業中の食事の提供、メディカルチェックサービスも継続し、少しでもPickerたちに集まってもらうこと、モチベーションの維持に取り組んでいます。

②摘み取られたチェリーはその場でPickerによって、熟度の良いもの、グリーンチェリーを分ける作業を行ったのち、農園からトラックで約20分のところにあるWet Mill “Beneficio San Carlos”に運ばれます。

③Wet Millに到着したチェリーは、チェリー集積槽に入られます。この集積槽は、出口が“く”の字になっており、チェリーが勢いよく次の工程にいくことを防いでいます。このWet Millでは、飲み水にもなる自然の湧水をポンプで運んできて使っています。

*当Wet Millは、エコロジカルな仕組みにできています。1ポンドのパーチメントを処理するのに、3ℓの最小限の水だけを使うようにしています（③～⑤：2ℓ、⑥～⑦：1ℓ）。また、このエリアは水が貴重なため、水をリサイクルして使っていますが、昨日使った水は今日は使わない、数回リサイクルしたものは使わないなどのルールを決めています。

④水と一緒にゆっくり送られたチェリーは、“サイフオン”と呼ばれる機械に送られ、水による比重選別が行われます。比重が軽く浮いたチェリー（過熟、Empty、虫食いチェリー）は、別ラインへ進み処理されます。

同時に沈んだチェリーのみを選別し、プラスチックバッグへ入れ、Wet Millから車で約15分のところにある

Dry Mil “Beneficio Buenos Aires”へ運ばれます。

*サイフオンは2023年11月にPinhalense社製の最新機器を導入しました。

⑤シェード付きのアフリカンベッドへ拡げ乾燥を開始、約22日間かけて乾燥させました。乾燥中にはワーカーたちの手によって、好ましくないパーチメントや、チェリーが残ったままのパーチメントを取り除いています。

（取り除かれたものは、別のロットへ混ぜられます）



<Sustainability>

●農園には、飲み水にもなる水源が3つあり、その周辺のShade Treeを残すようにしています。また、Shade Treeだけではなく、川近くの自然林を保護等の環境保全にも積極的に取り組んでいます。

●農園の周辺地域のサポートも行っています。その地域の人々が利用できる学校、メディカルセンター、スポーツセンターがあります。学校の名前は、Buenos Airesと呼ばれており、52名の子供たちが在籍しています。彼らは、この学校で使う備品などを寄付しています。また農園に先生を呼び、農園で働く人々の子供たちが、昼間勉強できるようにしています。

●San Fernandoという地域にある教会、学校、水の供給のサポート、Quilaliという地域に水のサポートを行っています。また、Ocotal市に住む人々（4～5万人）に下水用の水を供給しています。

●2012年6月にさび病被害が確認されました。以前からこの地域では確認されている病気ではありましたが、その時の病気は依然のものより蔓延速度が速く、フングスの種類も多く確認されました。その当時は、“Alto 100”というさび病対策の農薬を使っていましたが、2014年からは“TIMOREX GOLD”というよりオーガニックで自然のものに近いものに切り替えました。薬でフングスを退治するのではなく、樹の健康状態を良くすることで樹が耐性を持てるように心がけています。そのために、一本の樹の枝の本数、“TIMOREX GOLD”（バイオ殺菌剤）を撒くタイミングや量を管理しつつ、農園環境を作るShade Treeの手入れにも気を配るようにしています。

